

103-191

問題文

表 抗不整脈薬を処方された患者数

抗不整脈薬	低血糖発症	
	あり (n = 90)	なし (n = 450)
A	5	25
B	3	21
C	10	6

- 1. この調査はコホート研究に分類される。
- 2. この調査は介入研究に分類される。
- 3. A非服用者を対照とした場合、A服用者の低血糖発症のオッズ比は1である。
- 4. 低血糖の発症リスクはB非服用者より、B服用者の方が高い。
- 5. 低血糖の発症リスクはCの方が他の2剤に比べて高い。

解答

3, 5

解説

選択肢 1 ですが
コホート研究（要因・対照研究）は 前向き研究の一種です。 本問の調査は、後ろ向き研究の一種です。 よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが
介入研究とは、 疾病と因果関係があると考えられる要因に 積極的に介入する研究です。 例えば 解毒剤を投与した群と、そうでない群の 有病率を調べるといった研究になります。 本問の調査では介入は見られません。 よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 は、正しい記述です。
Aあり・・・a=5, b=85、 Aなし・・・c=25, d=425 という表を考えて オッズ比である ad/bc を考えると、ちょうど1です。

選択肢 4 ですが
B服用者の低血糖発症リスクは $\frac{3}{90} = \frac{1}{30}$ （約分しました。） = $\frac{5}{150}$ です。（後のために、分母を150にしています。）

一方、 B「非」服用者の低血糖発症リスクは $\frac{21}{450} = \frac{7}{150}$ です。 よって B「非」服用者の方がリスクが高いと 考えられます。 よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は、正しい記述です。
n = 90 に対して、最も多い 10 が 発症しています。

以上より、正解は 3,5 です。

衛生まとめ 、、